

ミカンかすから3種のフラボノイド 新技術国際学会で最優秀賞

物質に一定の温度と圧力を加え、液体と気体の性質を併せ持たせた状態の「超臨界流体」をテーマにした国際学会「スーパーグリーン2013」が11～15日に台湾で開かれ、川崎町の一般財団法人マルボシ酢・アスキー食品技術研究所の星野倫太郎さん(25)＝田川市＝が筆頭著者を務めたグループの発表が最優秀賞を獲得した。



栽培の過程で間引きされる温州ミカンの搾りかすを有効活用し、血圧を下げる効果などがあるフラボノイド系の物質を効果的に取り出す研究を発表。超臨界状態の二酸化炭素と水を使って同時に3種類のフラボノイドを取り出すことに初めて成功したという。星野さんから同研究所の関係者6人を含む9人による共同研究だ。

星野さんは九州工業大台湾で開かれた「超臨界流体」についての国際学会で発表し、最優秀賞に選ばれた星野倫太郎さん(手前)

川崎のマルボシ酢・アスキー研究所 星野さんら 「説明 分かりやすさ心掛け」

大学院の修士課程を修了後、4月に同研究所に入所。「職員を大学で学ばせることで開発技術を高める」という研究所の方針で、10月からは名古屋大工学研究科の博士課程にも在籍している。

研究の筆頭著者を務めたことで発表や質疑応答を担当することになり「初めての国際学会でも英語。内容には自信があったので、自分の発表で評価を落とさないように分かりやすさを心掛けた」と振り返る。

最優秀賞に選ばれたのは発表した106グループのうち18の研究のみ。星野さんは「レベルの高い学会での受賞なので自信になる。これからは世界に発信できる研究を続けたい」と話した。

(糸山信)